

第9回日本プロオーケストラファンクラブ協議会総会 高崎大会

第9回J O F C総会 高崎大会2015

# 議 案 書

主 管 群響ファンズ

日 時 平成27年11月22日(日) 10時～12時

場 所 高崎ビューホテル あかぎ

# 「J O F C 第 9 回 総 会 高 崎 大 会」 総 会 次 第

平成 2 7 年 1 1 月 2 2 日 ( 日 ) 1 0 時 ~ 於 : 高 崎 ビ ュ ー ホ テ ル あ か ぎ

- 開会宣言 司会 ( 群 響 フ ェ ン ズ 若 林 昭 )
- 歓迎の挨拶 J O F C 副 会 長 小 野 善 平 ( 群 響 フ ェ ン ズ 会 長 )
- 来賓挨拶 群 馬 県 文 化 振 興 課 長 ・ ( 公 財 ) 群 馬 交 響 楽 団 評 議 員 加 藤 隆 志 様
- 群 馬 交 響 楽 団 の メ ン バ ー に よ る 記 念 演 奏
- 秋 葉 美 果 ( ヴ ァ イ オ リ ン 首 席 ) 、 高 杉 ( ヴ ァ イ オ リ ン )  
太 田 玲 奈 ( ヴ ギ オ ラ ) 、 フ ァ ニ ー ・ プ ザ ル グ ( チ ェ ロ )
- 活動報告 ( 総 括 ) J O F C 幹 事 石 守 晃 ( 群 響 フ ェ ン ズ 事 務 局 長 )
- 人事案件 J O F C 副 会 長 西 川 吉 武 ( 札 響 く ら ぶ 副 会 長 )
- グループ討論 「 会 員 拡 大 に つ い て 」  
「 オ ー ケ ス ト ラ 楽 員 と の 交 流 に つ い て 」  
~ 各 グ ル ー プ 発 表
- 次回の開催について J O F C 幹 事 会
- 閉会のことば 佐 藤 彰 ( 山 響 フ ェ ン ク ラ ブ 会 長 代 行 )
- 閉会宣言 司 会 ( 群 響 フ ェ ン ズ 若 林 昭 )
- 集合写真撮影

■会員数と動向

所属会員数	426 名	※2014年度末
前年度増減	-1 名	※入会者 約23名 退会者 約24名
増減の要因	会員の高齢化や病気などが退会の要因。コンサート会場のロビーでの呼びかけの効果で入会者も増えて	
活動会員比率	10 %	※年1度以上 イベント・ボランティア等参加・寄稿などされる方
世代構成・地域	60代～70代が多数を占める。たまに30代～40代が加わる。札幌市内及び近郊。	

■運営について

スタッフ数	25 名	運営会議の頻度(年	12 回)
予算規模	380 万円	運営情報の公開有	方法～HP
スポンサーシップ	あり		

■実施事業

	状況	頻度	備考/自由記入
交流会・パーティー等	実施中	年2回	総会後の交流会、クリスマスパーティ
茶話会・懇談会等	検討中		
セミナー・演奏会等	実施中	年4回	札幌くらぶサロン(過去の定演の名演奏やエピソード、定演の聴きどころ、楽員さんのミニコンサートやお話、交流会)
練習・ゲネプロ見学会	実施中	年2回	練習1回、ゲネプロ1回を札幌と共同で開催。
演奏会鑑賞旅行等	実施中	年2回	札幌東京公演、JOFC参加
会報発行	実施中	年4回	※モノクロ 発行部数800部 年4回 約8頁(12頁もある)
楽団グッズ等販売			別団体が実施している

■会員特典

	状況	頻度	備考/自由記入
楽団チケット割引等	実施中		定期演奏会、名曲シリーズ(SS席、S席のみ)10%OFF、U25シートは除く。
CD、グッズ等提供			
飲食店	実施中		キタラレストランで10%OFF、イル・ネージュでシェフからのサービス

■楽団支援事業

	状況	頻度	備考/自由記入
寄贈	実施中		年間50万円を会費の一部と会員から寄付で贈呈、10年目となる。
札幌市内中学生定演招待	実施中		協賛金130万円を原資に希望校を送迎バス付で定演毎招待している。
演奏会発行物			
パトロナージュ会員	実施中		年会費10万円1口
広報	実施中		楽員個人演奏会、札幌社会福祉貢献活動をHPに掲載

■共通の質問

Q1:環境、楽団・地域の状況(来場者数・ホール建設・消費増税の影響など)をお聞かせください。  
 札幌の定期演奏会は、金曜日と土曜日の2回ですが、金曜日の来場者が減少傾向にあります。これも高齢化が要因と思われます。  
 土曜日の開演時刻3:00が昨年から、2:00に替わり、これは、概ね好評のようです。札幌のメンバーも世代交代で、若い楽員が増えてきています。

■共通の質問(続き)

Q2:1年間最も進歩した点や力を入れた活動を教えてください。

①札幌くらぶサロンも3年目に入り、毎回40人ほどの参加。現在、1部～アーカイブ、定期これからの聴きどころ 2部～楽員さんのミニコンサートとお話 3部～交流会という形態が固まってきました。

②札幌市内中学生招待(協賛事業)も3年目に入り、昨年は14校409人を招待しました。最近は希望校が多くなり、調整に嬉しい悲鳴を上げています。

Q3:現在困っていることを教えてください。

交流会に参加する会員が同じ顔触れになってきていることと、年々減少傾向にあることです。高齢化が要因と考えられます。若い会員を増やしたいと考えています。また、楽員さんの参加も減少しています。楽員さんの話では、土曜日は生徒を教えることが多いということです。若い楽員さんが交流会に参加してくれると、くらぶの会員も若い人が増えるのではと考えています。

Q4:JOFCに期待する事を教えてください。

昨年の山形の総会の方法は、とても良いと思うので、今後も継続してほしいと思っています。共通の悩みをみんなで話し合うことができるので、参考になります。

できれば、話しやすいようにできるだけ少人数のグループがいいと思います。

■自由記入

■会員数と動向

所属会員数 96名  
 前年度増減 -10名 ※入会者 約12名 退会者 約22名  
 増減の要因

活動会員比率 56% ※年1度以上 イベント・ボランティア等参加・寄稿などされる方  
 世代構成・地域 年配者が多く若い人が極端に少ない。殆どが市内在住だが、他県の会員も少数だがいる。

■運営について

スタッフ数 10名 運営会議の頻度(年 14~5回)  
 予算規模 35万円 運営情報の公開 有 総会にて報告  
 スポンサーシップ 5社13万円

■実施事業

	状況	頻度	備考/自由記入
交流会・パーティー等		年1回	年度の終わり頃楽員の歓送迎会を兼ねて実施
茶話会・懇談会等		年7~8	定期演奏会終演後実施
セミナー・演奏会等		年1回	SPCおもしろセミナー(演奏と講演の会)
練習・ゲネプロ見学会			
演奏会鑑賞旅行等			
会報発行			※カラー 発行部数 300部 年 3回 約12頁
楽団グッズ等販売			

■会員特典

	状況	頻度	備考/自由記入
楽団チケット割引等			20%割引の特典をもらっているが殆ど利用されていない
CD,グッズ等提供			上記に同じ
その他			

■楽団支援事業

	状況	頻度	備考/自由記入
寄贈			
ボランティア			
演奏会発行物			
その他		年3回	1回2名年間3回6名を仙台フィル定期に招待。 仙台フィルサポート会員(法人ブロンズ会員)

■共通の質問

Q1:環境、楽団・地域の状況(来場者数・ホール建設・消費増税の影響など)をお聞かせください

永年、規模の大きい音楽専用ホールを望んでいるが実現していない。

■共通の質問(続き)

Q2:1年間最も進歩した点や力を入れた活動を教えてください。

楽団員との親密、親愛なる関係に努力した。

Q3:現在困っていることを教えてください。

会員の減少に伴う財政規模の維持。

Q4:JOFCに期待する事を教えてください。

全国規模で仲間がいることをオーケストラの維持、発展に重要な要素として社会に認知されるよう活動を続けることが大切である。

■自由記入

・今年で創立20周年を迎えました。15周年当時を振り返ってみますと、ここ5年間でオーケストラ事務局との関係が改善されました。

## ■会員数と動向

所属会員数	98名	※2014年度末
前年度増減 増減の要因	5名減	※入会者 約 8名 退会者 約13名

活動会員比率 世代構成・地域	10%	※JOFCを通じて支援いただいた方は3割に及んだ 県内7割・県外3割。山形市近隣市町村で4割。年代は50代が中心、リタイア層が割と少ない。
-------------------	-----	--

## ■運営について

スタッフ数	4名	運営会議の頻度(年	6回)
予算規模	19万円	運営情報の公開(有	方法・・・郵送・WEB )
スポンサーシップ	なし		

## ■実施事業

	状況	頻度	備考/自由記入
交流会・パーティー等	検討中	3回	楽団と合同BBQ(実施済み)・懇談交流会(予定)・15周年イベント(企画中)
茶話会・懇談会等	検討中		現状、演奏会後の交流企画は個人的な実施にとどまる
セミナー・演奏会等	検討中		演奏者を知ってもらう方向性のイベントを企画中。(15周年企画)
練習・ゲネプロ見学会	検討中		GP見学は継続するも、参加者減少。楽団より定期会員への公開について打診。引率支援を計画中
演奏会鑑賞旅行等			東京・大阪公演へは個人的な参加あり。
会報発行	実施中		モノクロ8p 200部 年2-3回。JOFC報告で、DVD会報に挑戦。 ※2015年からカラー化
楽団グッズ等販売			昨年楽団から打診があったが、体制が変わり退潮。
その他			会員個人からの演奏・イベント企画に協賛金を提供。

## ■会員特典

	状況	頻度	備考/自由記入
楽団チケット割引等	実施中		指定席鑑賞会員の割引を継続。定期公演2回⇒1回で都合合わなくなる人があり、不振。
CD、グッズ等提供			なし
その他			

## ■楽団支援事業

	状況	頻度	備考/自由記入
寄贈			継続的な実施はなし(可能であれば、会員の活動を生かした支援を目指したい)
ボランティア	実施中	年1回	オーケストラの日ボランティア
演奏会発行物	実施中	14年:7回	演奏者配置イラストを発行(県外公演)
その他			

## ■共通の質問

Q1: 環境、楽団・地域の状況(来場者数・ホール建設・消費増税の影響など)をお聞かせください。

観客の減少により、2015年は定期公演が2回⇒1回に。自由席の販売が困難で定期会員の拡大に制限がある状況の中、2回公演復活を目指してきた。(2016年は定期2回公演に復帰、年間を通じてベートーヴェン交響曲に取り組む。)  
山響活性化委員会の活動や、以前関西フィルで活躍された西濱事務局長を迎えたこともあり、楽団のマネジメントが一新。ファンクラブとの関係についても大きな転機となった。

## ■共通の質問(続き)

Q2: 1年間最も進歩した点や力を入れた活動を教えてください。

2014年は、JOFC山形大会の開催を中心に充実した活動ができ、楽団事務局との関係も深化した。  
(若干燃え尽きた点もあった)

2015年に入ってから、Q1で上げた楽団の変化への対応、Q3で上げる運営の根本的課題への取り組みが中心となった。  
困難な状況ではあるが、楽団のマネジメントが積極的にかかわる形に進展し、創造的な活動への発展が見え始めている。

Q3: 現在困っていることを教えてください。

スタッフ2~3名に負担が集中し、運営能力の不足と継続性が問題に。ゲネプロ見学など、公式行事への参加率の低下もあり、活動の見直しを進めている。  
SNSのトラブル、個人的な交流や親睦を中心とした活動に対する楽団員の負担も顕在化し、規律・会の在り方や目的が問われた。  
ファンクラブ総会を通じて新しい会の活動を模索している。

Q4: JOFCに期待する事を教えてください。

ファンクラブ活動は、ときに様々な困難を伴い、共通するものも多い。他クラブとの繋がりは、成功や失敗の先例・実務の知恵を受け継ぐだけでなく、特に成長過程のクラブにおいては楽団との関係を築く大きな力となっている。より活発な情報交換を通し、各団体の活性化に繋がると望ましい。  
将来、複数のクラブが一緒に行事を行うことができることを期待している。10周年総会を東京で共催したり、広島開催で広響フレンズの支援、九州・大阪などまだ成長途上のファンクラブの本拠で開催しゲストに迎えるなど、各団体の力になりながら所属団体が増加していく活動ができると良いと思う。

## ■自由記入

2014年の山響は、アフィニス夏の音楽祭in山形、JOFC山形大会、モーツァルト交響曲全曲演奏シリーズ”アマデウスの旅”8年間の最終年と、節目のイベントが続いた。

恒例の合同芋煮会・忘年会に加え、様々なレセプションで团员さんと酒宴の機会があり、楽しい一幕も多かった。

しかし、懇親に参加する人は一部の会員と一部の团员に留まり、固定化。ソーシャルネットワークサービス(Facebookなど)での写真や発言など、親しさゆえの問題も大きくなってきていた。

いままで楽団員をアーティストとして迎える活動や企画が無く、個人としての”飲み会”繋がりに頼っている部分は大きかった。  
JOFCを通じて学び、”オーケストラと一緒に発信する活動”への転換を目指し始めたものの、現役世代中心の限界、スタッフ・運営の力不足は重かった。

転機は2015年春。

楽団の活性化・事務局の刷新のなかで、以前関西フィルで活躍された西濱秀樹さんが新しく山響の事務局長・専務理事に就任された。

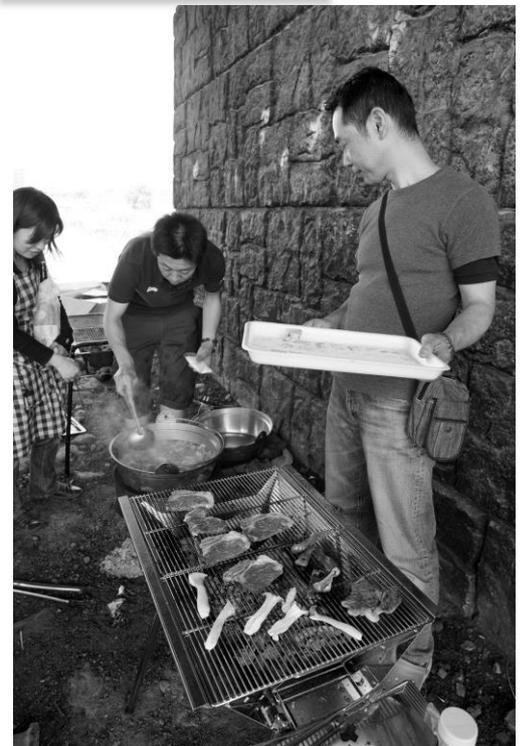
関西フィル時代に、ファンクラブの立ち上げと解散を経験された西濱さんは、ファンとの活動の充実も、ファンが暴走した時の怖さもよく知っておられた。

見えなかった楽団員の不安や不満、ファンクラブ活動の成果や運営の問題を対話の中で共有し、”活動目的や在り方”をもう一度見直す総会を実施。  
具体的な活動内容がようやく出始めたところであり、15周年の挑戦はまだ続く。

2015.02.14 ”アマデウスの旅”第24回 最終回  
終着レセプション



2015.05.24 FC/楽団合同BBQ会



2015.07.19 山響FC総会 (西濱事務局長のお話)



## ■会員数と動向

所属会員数	88名	※2014年度末
前年度増減	0名	※入会者 約 6名 退会者 約 6名
増減の要因	(増) チラシを見て (減) 体調が悪い、孫の世話、親の介護	

活動会員比率	65%	※年1度以上 イベント・ボランティア等参加・寄稿などされる方
世代構成・地域	60代、70代 多数 現役は 5人 石川県 中心、一部 富山県	

## ■運営について

スタッフ数	15名	運営会議の頻度(年)	12回)
予算規模	34万円	運営情報の公開	有
スポンサーシップ			楽友会だより、行事のチラシ

## ■実施事業

	状況	頻度	備考/自由記入
交流会・パーティー等	実施中	2	新年会 ほか
茶話会・懇談会等	検討中		
セミナー・演奏会等	実施中	7	ベートーヴェン講座:2回 ロビーコンサート:5回
練習・ゲネプロ見学会	実施中	5	最終リハーサルの見学
演奏会鑑賞旅行等	実施中	2	サイトウキネン・オーケストラ コンサート鑑賞ツアー、能登演劇堂鑑賞ツアー
会報発行	実施中	12	※モノクロ 発行部数 200部 年12回 約 2頁
楽団グッズ等販売			
ロビーコンサート	実施中	5	金沢を中心に活動する演奏家を招き 鑑賞後、歌唱指導があり 好評
邦楽企画	実施中	2	新内を楽しむ会、金沢芸妓の舞 鑑賞

## ■会員特典

	状況	頻度	備考/自由記入
楽団チケット割引等	実施中	随時	
CD、グッズ等提供			
その他	実施中		定期会員以外の 会員に情報誌「カデンツァ」を送付

## ■楽団支援事業

	状況	頻度	備考/自由記入
寄贈			
ボランティア	実施中	毎月11~12日	チラシ発送作業、チケットもぎり、会場案内、音楽資料室の受付
演奏会発行物	実施中	毎月	音楽堂コンサートガイド(事業団発行)
その他	実施中	随時	楽団員の個人演奏会 支援 (チケット販売、レセプション)

## ■共通の質問

Q1:環境、楽団・地域の状況(来場者数・ホール建設・消費増税の影響など)をお聞かせください。

音楽堂はJR金沢駅に隣接し環境は恵まれている。

■共通の質問(続き)

Q2:1年間最も進歩した点や力を入れた活動を教えてください。

楽団員自主企画演奏会への支援、音楽堂事業への参加と支援

Q3:現在困っていることを教えてください。

会員の高齢化。定期公演の来場者がやや減少気味(ソリストによってムラあり)。幹事会役員の後継者問題。

Q4:JOFCに期待する事を教えてください。

上記「困っていること」への対策、助言など頂ければと思っています。

■自由記入

■会員数と動向

所属会員数	150 名	※2014年度末
前年度増減	+1 名	※入会者 約 3名 退会者 約 2名
増減の要因		
活動会員比率	30 %	※年1度以上 イベント・ボランティア等参加・寄稿などされる方
世代構成・地域		年に2～3回開催のミニコンサートへの出席が主で、世代構成・地域は万遍なく参加

■運営について

スタッフ数	4 名	運営会議の頻度(年	10 回)
予算規模	約50 万円	運営情報の公開(有・無	方法・・・)
スポンサーシップ	なし		

■実施事業

	状況	頻度	備考/自由記入
交流会・パーティー等	実施中	2～3回/年	ファンクラブ主催のミニコンサートを開催時、終了後懇親(交流)会を開催
茶話会・懇談会等	実施中	2～3回/年	会報誌に楽団員インタビューというコーナーがあり、そのための食事会、及びインタビュー
セミナー・演奏会等	実施中	2～3回/年	ファンクラブ主催のミニコンサートを開催
練習・ゲネプロ見学会			
演奏会鑑賞旅行等	検討中		近場の大阪辺りへ行ってみたいとの意見あり
会報発行	実施中	2～3回/年	※カラー/モノクロ 発行部数300部 年2～3回 約6～8頁
楽団グッズ等販売	実施中	1回/年	会員更新時、本年度は八分音符型のブローチをプレゼント →非常に好評
名フィル事務局との意見交換	実施中	非定期	定期演奏会等での曲目選定について意見交換を実施 ファンクラブ主催コンサート開催時に出演者依頼と相談 ファンクラブ発行会報誌「フォルテ」に事務局リレー記事依頼時に意見交換

■会員特典

	状況	頻度	備考/自由記入
楽団チケット割引等	実施中	演奏会毎	名フィル事務局との連携により、チケットの一般発売前の先行販売、10%offを実施
CD,グッズ等提供	実施中	1回/年	上記、楽団グッズ等販売に記したように、会員更新時、八分音符型のブローチをプレゼント

■楽団支援事業

	状況	頻度	備考/自由記入
寄贈	実施中	1回/年	年会費3600円/人のうち600円を名フィルに寄付
ボランティア			
演奏会発行物	検討中		会報誌内に演奏会を感想などを会員に投稿していただくような企画を検討中
その他	実施中	2～3回/年	会報誌発行時点で、名フィルメンバーによる室内楽演奏会等があればパンフレット同封 名フィル団員をメディアに紹介(ラジオ番組等)

■共通の質問

Q1: 環境、楽団・地域の状況(来場者数・ホール建設・消費増税の影響など)をお聞かせください。

名フィルは比較的現代ものの曲の選定が多く、来場者数も年々下がり気味。危機感を持った名フィル事務局(理事長含む)と、我々幹事が忌憚のない話し合いを行い、2015年度については比較的なじみのある曲を定期演奏会等に取り入れていただいた。(勿論、現代曲を好む聴き手もいるが、大半はいわゆる名曲を望んでいるのでは?・・・という我々の主張)結果、15年度は14年度に比べ定期会員数が増えたという報告があった。

■共通の質問(続き)

Q2:1年間最も進歩した点や力を入れた活動を教えてください。

特に会報誌については、その時々のお話(ミニコンサート開催案内、結果報告)及び楽団員インタビューが中心で、継続して名フィルのことを理解していただけるような内容が少なかったため、本年度からは上記に加え、楽団員の思いのたけを語っていただくコーナー、新入団員自己紹介コーナー、名フィル事務局の名フィルに対する想いなどを語っていただくコーナー等、持ち回りで記事にすることにしました。

Q3:現在困っていることを教えてください。

幹事数が決定的に少ない。結果分業化が進んでおらず効率的な運営ができていないと言いたい。ミニコンサートも特定の演奏者に限り参加者が多く、若干マイナーな楽器がフューチャーされたコンサートは人を集めるのが大変。

Q4:JOFCに期待する事を教えてください。

是非各団体の会員確保、会報誌の発行等について経験をもとにしたアドバイスをいただきたい。

■自由記入

■会員数と動向

所属会員数 12 名  
 前年度増減 0 名 ※入会者 約 \_\_\_\_ 名 退会者 約 \_\_\_\_ 名  
 (再建メンバーのみです)

活動会員比率 % ※年1度以上 イベント・ボランティア等参加・寄稿などされる方  
 世代構成・地域

■運営について

スタッフ数 名 運営会議の頻 約10回 定演終了後が多い  
 予算規模 万円 運営情報の公開(有・無 方法・・・ )  
 スポンサーシップ

■実施事業

	任意のグループです。各個人の活動で将来の再建の基礎としています。主なものは、		
	1.団員(退団2、ソリスト1)への花束贈呈(3回)		
	2.東京公演への参加(2名)		
	3.定演時のアンケート回収の協力(数回)		
	再建メンバーの内1名が楽団幹部との話し合いで、再建の際の協力の意向をきいたが、個人的考えの段階です。		

■会員特典

	状況	頻度	備考/自由記入
楽団チケット割引等			
CD,グッズ等提供			
その他			

■楽団支援事業

	状況	頻度	備考/自由記入
寄贈			
ボランティア			
演奏会発行物			
その他			

■共通の質問

Q1:環境、楽団・地域の状況(来場者数・ホール建設・消費増税の影響など)をお聞かせください。

専用ホールについては、「サッカー場」の建設が最終段階に進んでいる為、進展なし。引き続き、旧市民球場跡地に建設するよう要望している。

■共通の質問(続き)

Q2:1年間最も進歩した点や力を入れた活動を教えてください。

各個人が出来る範囲で可能な活動をしているが、目立った成果は出来ず。しかし、意欲は衰えていない。

Q3:現在困っていることを教えてください。

今年度は、病気・事故による活動停止状態が3名、定年等での生活環境の変化でのマイナス要因の者3名、と動きがとれなかった。次年度に期待している。

Q4:JOFCに期待する事を教えてください。

JOFC総会に参加することが、再建の意欲の源となっている。

■自由記入

現状は「統一された考えをもつ仲良しグループ」といいよいと思います。

一人一人、各個人の活動を認め合いながら、「何とか少しずつ前進させよう」という状況と認識しています。

## ■会員数と動向

所属会員数	200 名	
前年度増減	-7 名	※入会者 7名 退会者 14名
増減の要因	退会者:薄情、不況	入会者:義理と人情

活動会員比率	26 %	※年1度以上 イベント・ボランティア等参加・寄稿などされる方
世代構成・地域	世代交代: 満遍なく	地域: 主として高崎、前橋

## ■運営について

スタッフ数	10 名	運営会議の頻度(年	12 回)
予算規模	32 万円	運営情報・・・広報紙「翔け群響」にて公開	
スポンサーシップ			

## ■実施事業

	状況	頻度	備考/自由記入
交流会・パーティー等	実施中	年3回	“Cafe パーティー with 群響メンバー”
茶話会・懇談会等			
セミナー・演奏会等			
練習・ゲネプロ見学会			
演奏会鑑賞旅行等	実施中	年1回	東京公演バスツアー
会報発行	実施中	年4回	モノクロ 発行部数 300部 4頁
楽団グッズ等販売			
その他	実施中	年1回	群響合唱団年度毎のTシャツ作製

## ■会員特典

	状況	頻度	備考/自由記入
楽団チケット割引等			
CD,グッズ等提供			
その他			

## ■楽団支援事業

	状況	頻度	備考/自由記入
寄贈			
ボランティア			
演奏会発行物			
その他	実施中	年9回	ファンズシート(高校生以下対象で定期演奏会招待 A席2枚)
演奏会後援	実施中	年2回	サマーコンサート、夏休みコンサート

## ■共通の質問

Q1:環境、楽団・地域の状況(来場者数・ホール建設・消費増税の影響など)をお聞かせください。

定期演奏会は毎回ほぼ満席、時に完売あり。それ以外の演奏会で空席が目立つものが多いのが残念。高崎市が新ホール「高崎文化芸術センター(仮称)」の整備を進めており、平成30年秋の開館を目指している。

## ■共通の質問(続き)

Q2:1年間最も進歩した点や力を入れた活動を教えてください。

昨年はじめた“Cafe パーティー with 群響メンバー”が軌道に乗ってきた。力を入れた活動？ もちろん、JOFC高崎大会の準備！

Q3:現在困っていることを教えてください。

資金難

Q4:JOFCに期待する事を教えてください。

一人ではなかなか行けない他のオーケストラの演奏会鑑賞、他のファンクラブの皆様との交流

## ■自由記入

“Cafe パーティー with 群響メンバー”

2014年4月に第1回を開催。年3回のペースで、来年1月に第6回を開催予定。群響定期演奏会のパンフレットにチラシを挟み込み、群響ファンズ会員以外の来客も多い。“Cafe パーティー”をきっかけに入会する方も。

会場は群響とゆかりの深い「cafe あすなろ」。非営利営業のため、使用料は無料。毎回群響メンバー数名が約30分間のアンサンブル演奏を聴かせてくれる。それ以外の時間は、演奏者の他にも群響メンバー数人が加わり自己紹介や歓談。会場のキャパシティの関係でお客さんは40人程度だが、それだけに密度の濃い交流が持てる。大友音楽監督がサプライズ登場し、大きな歓声が上がること。美味しいケーキとドリンクが付いて2,000円は大変お値打ち！群響団員や事務局の方が飲み物のお替わりを注いでくれる。

この催し、お客さんには大変好評なため、もっと宣伝して大勢の方を知ってもらいたいが、キャパシティに限りがあるのと人数が増え過ぎると群響楽員さんと交流しづらくなる、というジレンマを抱えている。

「cafe あすなろ」について

群響初期の奮闘を描いた映画「ここに泉あり」に感銘を受けた崔華國氏が1957年、「名曲茶房あすなろ」をオープン。群響団員を中心とした「生の音楽のタベ」を定期的に開いた。あすなろには群響メンバーの他、著名な文化人が出入りしたが1982年、惜しまれつつ閉店。2013年6月に高崎経済大学学生が運営する「cafe あすなろ」として再びオープンした。

東京公演バスツアー

群響ファンズが観光バスをチャーターし、群響の東京公演を鑑賞しに行く企画。主には、毎年3月のすみだトリフォニーホールでの公演時。帰りのバスには演奏を終えた群響メンバー数名も乗車して下さり、当日の演奏について等様々な質問に答えてくれる。

すみだ公演は定期演奏会とセットになっており、同じ内容の演奏会を高崎で聴けるためか、販売は伸び悩みお客は25人前後。毎回赤字事業となっている。それでも本拠地の群馬音楽センターの音響があまり良くないため、響きの良いホールで聴き比べたいというコアな常連客もいる。またバスがホールに横付けされるので、電車に乗り慣れていない群馬人には最適か。

群響ファンズシート

群響ファンズが定期演奏会のチケット(A席2枚)を購入し、応募者にプレゼント。応募資格は、小学4年生以上高校生まで(父兄同伴可)。

群響のチケット販売に協力しつつ、若年層のファン開拓を凶っているのだが、なぜかあまり応募がなく当選者の常連客が著しい。しかしファンズシートで群響の定期演奏会を初めて聴いた女子高生は「涙が出るほど感激しました」とのこと。何とかして応募者を増やしたい。

## 役員・幹事等就任予定者名簿

### 1 会則第7条の規定により総会で選任する役員

会 長 上 田 文 雄 (札幌くらぶ会長)

副会長 長 島 榮 一 (仙台フィルハーモニークラブ会長)

〃 佐 藤 彰 (山響ファンクラブ会長代行) …… 新任

〃 小 野 善 平 (群響ファンズ会長)

〃 石 井 慎 一 (名フィル・ファンクラブ代表幹事)

### 2 会長が指名又は任命する役員

幹 事 長 西 川 吉 武 (札幌くらぶ副会長)

事務局長 武 藤 義 典 (札幌くらぶ事務局長)

幹 事 佐 藤 佳 世 (仙台フィルハーモニークラブ事務局長)

〃 保 科 誠 (山響ファンクラブ事務局長)

〃 石 守 晃 (群響ファンズ事務局長)

〃 山 田 博 子 (名フィル・ファンクラブ代表幹事)

〃 静 岡 俊 郎 (石川県立音楽堂楽友会代表幹事)

〃 佐 藤 幸 一 (広響フレンズ)

顧 問 加 藤 聡 (山響ファンクラブ顧問)

# 次期開催地について

1 次期開催地については、

名古屋市

を提案させていただきます。

主催は、名フィル・ファンクラブにお願いいたします。

# 懇親会次第

開会のことば 司会（群響ファンズ 田中 美貴子）  
歓迎の挨拶 J O F C副会長 小野 善平（群響ファンズ会長）  
来賓挨拶 公益財団法人群馬交響楽団専務理事 折茂 泉様  
紹介 群馬交響楽団音楽監督 大友 直人様  
諏訪内 晶子様  
乾杯 J O F C顧問 加藤 聡（山響ファンクラブ顧問）

～歓談～

10：10頃 （大友音楽監督と諏訪内さん、東京にお帰りになるので、ここで大友監督にご挨拶を…）

～歓談～

紹介 群馬交響楽団コンサートミストレス 伊藤文乃さん  
参加クラブの紹介 各クラブ壇上へ、写真撮影  
札響くらぶ 仙台フィルハーモニークラブ 山響ファンクラブ  
石川県立音楽堂事務局長 川西豊博様と石川県立音楽堂楽友会  
名フィル ファンクラブ 広響フレンズ 群響ファンズ

閉会のことば 司会（群響ファンズ 田中 美貴子）